

2022 - 2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 8月

作成者：田中優葵乃

作成日：2022年9月5日

皆様、初めまして。この度、2022年福井県奨学生としてフィンドレー大学に留学させていただいております、田中優葵乃と申します。福井県奨学生として、このような素晴らしい機会をいただき、心から感謝しております。頂いた機会を大切に、豊かで有意義な留学となるよう、日々精一杯努力をしまいたいと思います。

【キャンパスでの生活について】

キャンパス内には生徒が共同で住む家が多く建っており、一軒家のような先生方のオフィスも同じように建ち並んでいます。芝生や木々が至る所にある、緑の生い茂る自然豊かなキャンパスで、とてもリラックスして生活することができます。

1週目には、入学した1年生のためのオリエンテーションが行われました。そこでは、フィンドレー大学の入学式恒例である正門のアーチをくぐる儀式があり、フィンドレー大学のマーチングバンドの演奏のもと、私たち留学生も現地の新入生と同じように列をなしてくぐりました。この正門のアーチは入学と卒業の際にしか通ってはいけないようで、通ってしまうとテストで悪い点数を取ったり、落ちてしまったりするというジンクスがあるようです。沿道には新入生の保護者やアカデミックドレスを着た教授方、多くの上級生が並び、祝福をしてくれ心が温くなりました。



約1週間にわたるオリエンテーションは、実行委員会の生徒が主催しており、ランダムに振り分けられたグループで、キャンパス外の高齢の方が住んでいるお宅や、幼稚園、学校などの公共施設に出向き、ボランティアを行ったり、様々なレクリエーションが開催されたりしました。

夜の20時を過ぎても日が落ちず、外が明るいいため、広大な芝生のコートや砂地のバレーボールコートでスポーツやレクリエーションを楽しむことができました。オリエンテーション期間での様々なレクリエーションやピクニックと呼ばれるバイキング形式の食事会などで、現地の生徒と交流することができ、友達を作る良い機会となりました。

レクリエーションにてサンドバレーボールを楽しむ様子

【シェアハウス】

大学のキャンパス内にある一軒家で、私を含め日本人5人とアメリカ人8人の計13人で生活しています。平屋の家で、バスルームが2つ完備されています。ハウスメイトのアメリカ人8人のうち7人がこの秋に入学した1年生で、RA (Resistance Assistant) と呼ばれる、キャンパス内の住居に住む学生から選出された代表である2年生の生徒がいます。13人での共同生活というと、少し窮屈に思われるかもしれませんが、全くそんなことはなく、



RAのライリーの誕生日パーティーの様子

より多くの子と親しくなることができとても嬉しいです。ハウスメイトは皆とても良い子で、リビングやダイニングに集まり、談笑する時間はとても楽しいです。28日(日)には、RAのライリーが翌日に誕生日であったため、ハウスメイトに声をかけ誕生日パーティーを行いました。当日ハウスメイトの車に乗せてもらい、近くのスーパーでアイスクレーキやドリンク、スナックを調達し、飾りつけも共に行いました。一日早いですが、見事サプライズを成功させることができ、思い出に残る誕生日パーティーとなりました。

【授業について】

今学期は、International Student 向けの Writing, Criminal Justice, Philosophy, International Studies などの授業を履修しております。全ての授業を対面で受けており、授業が始まってちょうど2週間経ちました。授業は、1コマおよそ1時間で、週2、3回同じ授業を受けております。

Criminal Justice の授業では、現在アメリカの刑法や刑事手続きについて学んでおります。銃の所持や一部の州で大麻が合法とされているアメリカにおいては、刑事事件の対処や、検察の手続きにおいて日本と異なる部分が多くあるのだと学びました。

Philosophy の授業では、ソクラテス、カント、デカルトといった古代から現代までの代表的な哲学の概要をつかむことを目的に、講義が展開されています。毎週教科書を1チャプターずつ読み、関連するクイズを解き、Open Questions に答える課題を行います。その上で、授業でグループに分かれて意見交換をしたり、先生が問いに関連する動画を見せてくださったり、講義をしてくださります。最近の授業での「生きる意味とは何か」というテーマは考えさせられるトピックでとても興味深かったです。

International Studies では現代世界に生じている貧困や人種差別などの様々なテーマに関して、解決のために行われている対策について学んでいます。大学内には、出身の異なる

様々な生徒が共に学んでおり、多様性の素晴らしさと、共に学ぶことの楽しさを実感しております。

こちらに来てもうすぐ 1 か月がたとうとしているのですが、月日の流れの速さにとても驚いています。自分から積極的に行動し、努力を継続して、毎日を大切に生活していこうと思います。

本報告書について質問、感想等ございましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。
tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 9月

作成者：田中優葵乃

作成日：2022年10月9日

夏から秋へと季節が移り、朝晩はさることながら日中も冷たい風に震える寒さを感じるが増えました。比較的気温の高い日には、暖かい日差しに心地よい秋の空気を感じる日もあるのですが、翌日には一気に気温が下がり冷え込むこともあり驚いています。季節の変わり目で体を壊さないよう気をつけたいと思います。今月のレポートでは元気キッズと休日・放課後の様子についてお伝えいたします。

【元気キッズ】

元気キッズの授業では、フィンドレーに住む小学3~5年生の子どもたち12人が毎週木曜に大学に訪れ、日本語や日本文化を教え、交流するということを行います。これまでは、計6回にわたって行われるレギュラーセッションのための打ち合わせと準備を行い、先日初めて子どもたちと対面し、活動を行いました。今回のトピックは書道で、子どもたちに自分の名前をカタカナではどのように書くかを教え、実際に習字で書くという体験を企画しました。こちらの子どもたちとの交流は初めてだったのですが、皆書道に興味津々で、満面の笑みで書道を楽しむ様子が見られ、とても心が和む楽しい時間でした。今後のレギュラーセッションでは、子どもたちにレクレーションを通して、色や家族、動物の日本語での発音を教えたり、折り紙体験を行う予定をしています。子どもたちにとって分かりやすく、楽しい体験となるようにすることを念頭に置きながら、どのように子どもたちに日本語や日本文化について教えるとよいかを考えることは、簡単ではなかったのですが、子どもたちにとって記憶に残る素敵な異文化経験となるよう今後も一生懸命活動を行っていきたいと思います。

【休日・放課後の様子】

4日間の Fall Break に、こちらの友達と留学生のドイツ人の友達、日本人留学生の友達2人とテネシーの Great Smokies に行き、ハイキングをしました。現地で、こちらの友達の知り合い親子と待ち合わせをし、約22キロを計7時間かけて歩きました。初めての本格的なハイキングで、険しい斜面に息が上がり辛い道のりだったのですが、高さ2036メートルの山頂からの景色はその過酷さを忘れる圧巻の美しさでした。また森林の鮮やかな緑や、迫力ある滝、森の中



の新鮮な空気に、自然の壮大さを増分を感じ、リフレッシュすることができました。夜には宿泊先近くの山に行き、星空を堪能しました。人工の光が閉ざされた場所では、これほどきれいに多くの星を見ることができるのだと感動しました。また、7時間の車での移動中、アメリカとドイツの友達とそれぞれの教育制度や学校の様子、政治制度の違いや、将来の夢、恋愛など多くのことについて語り合い、異なる国の人々と交流することの楽しさや充実感を実感したとともに、そのような経験をできている幸せを強く感じました。

9月の半ばには、様々なクラブ活動の紹介イベントが行われ、私はスキューバーダイビング、ハイキングやキャンプなど自然の中で課外活動を行うクラブ、ボランティアクラブ、学内イベントを運営するクラブなどにサインアップしました。今月は1回目のミーティングが行われ、今後のアクティビティについての説明や所属するメンバーとの顔合わせがありました。あるクラブでは焚火を囲んでみんなでスモアを作って食べたり、ミニクイズ大会を行ったりしました。また、クラブ活動後に代表者の家に集まり、ピザを食べながら映画を見ることもありました。国籍、学年、出身問わず皆で楽しい夜を過ごすことができ、今後の活動が待ち遠しいです。また、フィンドレー大学には日本文化クラブというクラブもあり、日本に興味のあるこちらの学生と共にたこ焼きやおにぎり、たい焼きを作りました。日本語の授業が開講されていることもあり、日本語や日本文化、食に興味を持ってきている想像以上に多く、多くの学生と日本食を通して交流することができ、とても楽しい時間になりました。



今後も一日一日を大切に、様々なことに挑戦していこうと思います。

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 10月

作成者：田中優葵乃

作成日：2022年11月10日

ハロウィンが終わり、秋学期も残り1か月となりました。今朝、携帯で天気予報を確認したところ、この日曜を境に一気に気温が下がり、来週は最高気温が4℃、5℃となっていました。いよいよ冬が到来するのだと知り、少し恐ろしいのですが、冬を楽しんでいきたいと思います。今月のレポートでは、children's mentoring、紅葉狩り、先生宅への訪問、ハロウィンについてお伝えいたします。

【Children's Mentoring】

フィンドレー大学より、車で20分ほどのところにある Bigelow Hills 小学校を訪問し、放課後を学校で過ごす子どもたちとアクティビティを行いました。チルドレンズメンタリングとは、オハイオ州で行われている子どもたちの精神的健康と成熟を支えるために行われるメンタリングの活動です。私たちの訪問させていただいた小学校でも、フィンドレーに住む高校生や大学生が放課後に訪れ、子どもたちと放課後を共に過ごし、ケアを行っているようです。共に活動を行ったのは4.5.6年生の子どもたち10人ほどで、ジェスチャーゲームを行いました。活動でとても感激したのは子どもたちの積極性と、明るさです。活動を始める前に先生は、子どもたちにアクティビティの際に大事なことは何かを確認したのですが、その際ほとんどの子どもたちが元気よく挙手し、①話を真剣に聞く②respectの態度③感謝を伝えると発言していました。この教えは日ごろの活動や、授業の中でよく教えられていることだと思うのですが、子どもたちがしっかりと心にとどめ、積極的に挙手、発言する様子に、アメリカの教育の良い一面を感じました。子どもたちがアクティビティに楽しんで参加してくれ、現地の高校生、大学生と話すこともできてとてもよい経験になりました。

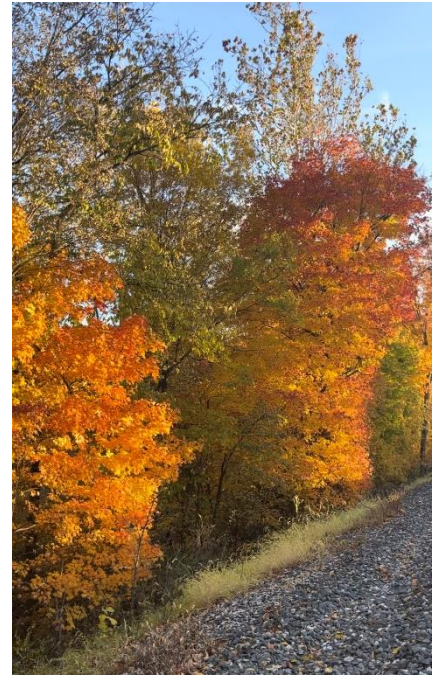
【ハロウィン】

キャンパス内にある教会の方がフィンドレー大学生向けに開いてくださったホームパーティーに行き、初めてのpumpkin carvingをしました。また、皆で焚火をかこみスモアを食べたり、Apple ciderというこの秋限定でのむことができる自家製のアップル100%のジュースを飲んだりしました。招待してくださったお宅の地下には、卓球台やダーツ、シアター部屋があり、夜が更けてからはそこで遊び、最後にハロウィン映画を鑑賞しました。何から何までそろった豪邸で驚いたとともに、みんなの作ったpumpkin carvingにキャンドルを灯した時にはとても興奮しました。



【紅葉狩り】

放課後に所属している Wildness クラブの活動で、大学より車で 20 分ほどにある Van Buren State Park に紅葉狩りに行きました。公園にはミニハイキングコースがあり、紅葉真っ盛りの森の中を 1 時間ほど散策しました。地面いっぱいに黄色、オレンジの紅葉があり、森の中に入ると木々と草花の自然のにおいが感じました。クラブメンバーの子が、こちらの人は山や森や公園といった自然にあふれた場所へ赴くことが多いようで、この時期はハイキングにもってこいのおすすめの時期だと話していました。皆で秋を感じに、散策に出かけることは日本では考えたことがなかったので、とても新鮮でした。また自然を楽しみ、親しむ心を持つことの素晴らしさと、自然の持つヒーリング効果を再認識しました。



【先生宅への訪問】

10 月末の週末に Writing のクラスの先生が招待してくださり、一緒に授業を取っている生徒の皆と夕飯をごちそうになりました。Writing のクラスには、同じ日本からの留学生が 2 人、イタリア、スペイン、セルビア、シンガポールの生徒がおり、先生が日本に 7 年住んでいたため日本料理をよく知っており、皆で餃子、手巻きずしを作りました。その他にも、先生が豚の角煮とちぢみ、ホームメイドのクッキーを用意して下さいました。こちらに来てびっくりしたのですが、アメリカでは生魚を食べることが一般的ではなく、カリフォルニアロールと呼ばれるアボカドとクリームチーズのなどが入った創作的な手間寿司が有名のようです。一緒に餃子と手巻き寿司づくりができたことはもちろん、日本の友達と一緒に彼らに箸の使い方を教えたり、納豆を試してもらったり、最後にはセルビアでとても有名だという民謡ダンスを一緒に踊ってみたりと、楽しく温かい夜を過ごすことができました。



皆で作った餃子



イタリア出身マテリオ作の手巻き寿司ならぬ裏巻き（イタリアではこちらの方がポピュラーのよう）



本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。 tanakay@findlay.edu

クラスの皆の箸初体験記念

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 11月

作成者：田中優葵乃

作成日：2022年12月10日

全ての授業と最終課題が終了し、冬休みに入りました。あっという間に秋学期が終わってしまい、留学もあと半年かと思うと寂しいです。留学を終えた際、後悔の残らないように、やりたいことは行動に移し、目標に向かって一步一步進んでいけるよう頑張ろうと思います。今月のレポートでは授業、中間選挙、おにぎりアクション、Thanks giving についてお伝えいたします。

【授業について】

秋学期も折り返しの時期となり、中間テストやプレゼンテーションをそれぞれの授業で行いました。ライティングのクラスでは、授業で取り組んできた Argumentative essay のまとめとして、プレゼンテーションを行いました。Argumentative essay とは、社会で賛否が議論されているトピックを選び、根拠を示しながら自分としての立場を述べるというエッセイです。私は、日本にいる時より興味を持っていたアメリカの銃規制をトピックとして選びました。初めは厳しい銃規制が必要だと強く思っていたのですが、エッセイを書く過程でアメリカの建国の歴史や、憲法、人々の価値観、自己防衛としての銃の必要性について知り、銃規制の難しさを学びました。エッセイの書き方を学ぶというのが、授業の軸ではあるのですが、書くにあたっての下調べも私にとってはたくさんの学びに溢れていました。ノンネイティブスピーカーのクラスといえど、どの生徒も話すスキルがとても高いので、不安だったのですが、プレゼンテーションの授業を終えた際、楽しかったと心から感じました。そのように感じる事ができたのは、プレゼンテーション前日の夜、ルームメイトに自分の原稿を実際に読み上げてもらい、音声を録音し、それを聞きながら練習できたことで、ある程度自信を持って自分自身が発表できたことがあると思います。加えて、他の生徒のプレゼンテーションを聞くことがとても楽しく、皆私たち聞き手に語り掛けるように、自分の言葉で熱心に説明をされており、私もこのようにもっともっと緊張せず、楽しみながらプレゼンテーションができるようになりたいと刺激を受けたこともあると思います。また、日本ではこのような授業を体験したことがなかったので、とても新鮮で興奮したと共に、プレゼンテーションの力や、話すスキルについても伸ばしていきたいと感じる授業でした。

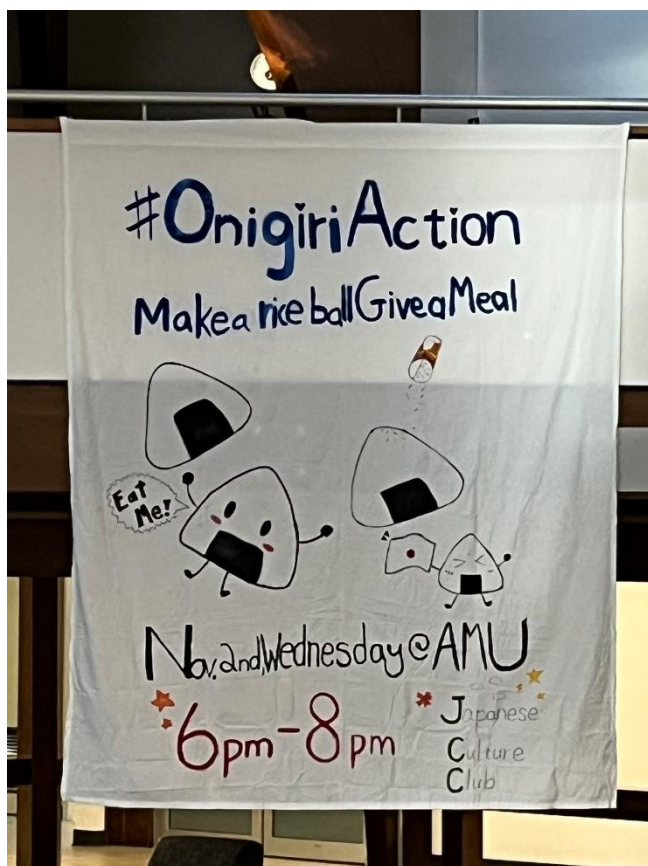
【中間選挙】

11月半ばに、中間選挙が行われました。期間中には通りの家々の前に、候補者を支援するプレートが立ててある光景を目にしました。オハイオ州は、共産党の勝利だったのですが、町の様子を見る限り、共産党が多数派であるのだと確信するような雰囲気を感じることはなく、なぜオハイオ州は共産党支持者が多いのかと疑問に思ったので、何人か友達に質問をしました。とても複雑なことではあるので、絶対的理由などはないのですが、考えられる理由の1つとして以下のようなことを教えてくださいました。まず、前提としてあるのは、保守派は共産党支持に傾きやすいということです。オハイオ州には、教会が多いようで、これは敬虔なクリスチャンが多いということが分かります。そして敬虔なクリスチャンは、聖書の教えや、神を大切にするので、保守的な考えを持つ傾向が高まるということです。実際に、毎週教会で会う敬虔なクリスチャンの友達は、政府以上に神が尊い存在であるので、政府がその力で人々に多くを与

えることは望まないという意見を持っていました。例えば、社会保障は民主党と共産党とで意見が分かれる問題の一つですが、公的支援が広く行きわたることは望んでいないと言っていました。LGBT や人工中絶も民主党と共産党とで意見が分かれる問題ですが、これも保守派の考えの背景には聖書の教えが関係しているようです。聖書の教えとして、人は神によって生を受けたのでその純粋な生を転換することであつたり、授けられた生を人の手で閉ざしたりという考えは、容認しにくいいため、否定的な立場のようです。このような民主党と共産党とで意見の異なる主要な問題について、彼らは聖書やキリスト教の神の存在への考えを背景に保守的、ひいては共産党支持に傾きやすいのだと考えられます。ただ、同じくクリスチャンであるカトリック教徒の友達は、お父さんは共産党を支持、お母さんは民主党を支持、自分自身は中立と話しており、クリスチャンが必ずしも保守派支持に向かうわけでは全くないということが分かりました。またその話を聞いて、個人個人の考え、意見を尊重するアメリカの文化を感じました。彼らが教えてくれたことから分かったのは、宗教的な考えが、政治への考え、見方に大きく影響をしていることです。そして、日本にいる時には共産党を支持する人に対し、あまり良くないイメージを持っていたのですが、キリスト教の教えを純粋に信じ、大切にすることがゆえに、傾向するというものもあるのだと学び、見方が変化しました。

【おにぎりアクション】

おにぎりアクションとは、世界の貧困の中で生きる子どもたちに給食を届ける取り組みの一つとして行われている『TABLE FOR TWO』という団体の取り組みで、おにぎりにまつわる写真に #OnigiriAction



を付けて SNS に投稿すると、その団体の協賛企業の寄付により、アフリカ・アジアの子どもたちに給食 5 食が届けられるというものです。私たちもフィンドレー大学の生徒とおにぎりを作り、味わうイベントを行うことで、この取り組みに貢献できるということで、キャンパス内で放課後にイベントを開催しました。日本語文化クラスに所属しているこちらの学生たちと協力し、20 合のお米、ツナマヨ、ゆかり、鮭のふりかけ、ごまのふりかけを用意し、来てくれた学生と共におにぎりを作り、それぞれ写真を取り、SNS への投稿をお願いしました。来てくれた学生のほとんどが、おにぎりを作るのは初めてで、握り方の見本を見せると、驚きそうするのか！と納得していました。日本文化をまた 1 つこちらの学生に歌え、ともに楽しむことができたことに喜びを感じました。また、彼らの日本に対する関心やイメージ、考え方が良いものになると嬉しいです。

イベント宣伝のため日本語文化クラブで作った弾幕

【Thanks giving】

11月22日から27日までの Thanks giving 休暇に、友達のアビのお宅に行かせてもらいました。Thanks giving は、日本のお正月のようなもので、家族が集まり、伝統的な食事を作り、共に囲むアメリカ伝統の文化の一つです。私の他に、もう1人日本人留学生の女の子と、アビが高校時代に、同じ高校に留学生として共に通い、アビの家に1年間ホーム捨てをしていたスペインの男の子も共に泊まらせてもらい、一緒に休暇を楽しみました。スペイン人の彼は、この秋学期アビの家より2時間の大学に留学しており、初めて会ったのですが、ネイティブ並みの流暢な英語で、とても刺激を受けたとともに、素晴らしい人柄と、自分と同じく留学を志し、世界を広げたいという意志を持って挑戦し続けていることを知り、出会



アビのおばあさまが操縦し、
一緒に乗らせていただいたヘリコプター

て良かったと感じています。そんな休暇の間には、アビのお母さんと Thanks giving のランチ用に、アップルパイ、ラズベリーパイ、かぼちゃのスープを一緒に作ったり、アビのおばあさまの操縦する小型ヘリコプターに搭乗し、空を飛んだり、アビのお父さんとシュッティングをしに行ったり、秋休みに共にハイキングをしたアビの友達とローラースケートをしに行ったり、夜皆で韓国ドラマを鑑賞したりしました。Thanks giving のランチではアビお母さんの作ってくれた伝統料理のターキーやマッシュポテト、一緒に作ったパイなどたくさんの料理を食べました。また、食事をしながら、自分自身が感謝したいことをそれぞれ話すのが伝統のようで、家族を大切にし、感謝を言葉にして伝えるというのはとても素敵だなと感じ、心が温まりました。アビの家族は皆さん本当に愛の溢れた素敵の方々に、思い出の全てがかけがえのない宝物になりました。

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。
tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 12月

作成者：田中優葵乃

作成日：2023 年 1 月 8 日

約 1 か月の冬休みが終了し、明日から春学期が始まります。今回の報告書では、冬休み中のコスタリカでの Serving program、ニューヨーク、ワシントン DC への旅行について報告致します。

【 Costa Rica 】

昨年 10 月に、フィンドレー大学でコスタリカへの短期留学の応募があり、10 日間コスタリカに行ってまいりました。この短期留学は、Serving program というもので、現地のコーヒー農場への訪問、市内の公園のごみ拾い、難民受け入れ施設での掃除、セットアップの手伝い、子どもたちが放課後に集う施設での活動といったように、現地でのボランティアを主とする留学プロジェクトです。私を含めた日本人留学生 3 人と学部、学年様々のフィンドレー大学の学生 12 人が参加し、共に 10 日間コスタリカで様々なボランティア活動を行いました。

プログラムを終え心に残ったのは、コスタリカの人々の共助です。プロジェクトで伺った難民受け入れの施設や、子どもたちの集う学校は、非営利団体で政府や他団体の寄付金によって成り立っているようです。難民受け入れ施設は、決して綺麗に完備されている場とは言えないのですが、たくさんの人々がセットアップのために自ら掃除をし、子どもたちの遊び場を作り、少しでも居心地よく過ごせるよう尽力していました。市内の公園で、土曜の夜に行われるホームレスの人々への食事の配布、シャワールーム、医薬品の提供の取り組みにも参加したのですが、そこにも多くのボランティアの方がおり、驚きました。収入のないホームレスなどの人々は、医薬品を無料でもらえることができるようで、人々がそういった恵まれない人々を排除、無視しようとするのではなく、自ら手を差し伸べるのが当たり前の社会を感じました。

加えて、プログラムを共に過ごしたチームメンバー、私たち学生を引率してくださったフィンドレー大学の先生、現地のコーディネーターの方との交流も心に残るものとなりました。出発前、計 5 回のチームミーティングを行ったのですが、正直その時点では皆打ち解けておらず、互いにほとんど会話することのない状態でコスタリカに向かいました。ただコスタリカで様々なボランティア活動を協力して取り組み、体力勝負のハードな活動も、声を掛け合いながら行い、自然と笑いが生まれ、絆が深まりました。毎晩夕食後にあったリフレクションの時間には、それぞれが今日一日を振り返り、楽しかったこと、印象的だったこと、学んだことなどを話すのですが、その時間でそれぞれが学びを共有し、チ

ームとしての結束力を皆が再確認することができて、このプロジェクトに参加してよかったと感じました。その中で印象に残ったのが、引率の先生の「Love more hate less.」という言葉です。憎むのではなく、家族や友達、自分の周りの人々を愛し、大切にする。日本では、相手に直接に言葉でしっかりと愛を伝えることが日常的なことでないけれど、言葉で伝える、周りの人に愛を持って接するということは素敵なことだと感じました。心にとどめておきたい言葉です。



伝統的なコスタリカの料理



絶景のビーチ



夕方に海辺でチームメンバーの子と撮った写真

【 New York 】

年末はこちらの日本人の友達3人と一緒に、1週間 New York に滞在しました。自由の女神や、美術館、博物館、9.11 記念館、タイムズスクエア、セントラルパークなど観光地を巡り、大都会 New York を感じてきました。とても驚いたことは、ニューヨークの中心地での強烈な大麻のにおいです。ニューヨークでは大麻の娯楽的な使用が合法化されたよう

で、道端で吸っている人がいたり、お店があったりし、大都会の暗を見ました。ただ、美術館や、タイムズスクエアでの年越しカウントダウンなど素晴らしい芸術と街並み、活気ある町の雰囲気を感じることができ、大いに楽しみました。

【 Washington D.C 】

ワシントン DC は、歴史、時代を感じる省庁の建物が立ち並び、ニューヨークとの街の景色との違いに驚きました。博物館、国家議事堂、ホワイトハウス、記念碑、美術館など名所をぐるぐるとバスで回りました。ワシントン DC を周遊するバスは、コロナ禍以降お金を払わずに乗ることができるようになったと運転手さんが教えてくれ、バスに乗る際は、にっこりとありがとうと言い、たくさんバスを利用し観光しました。



この冬休みでこれまで行ったことのなかった土地に行き、多くの人と出会い、新しい世界を見ることができました。コスタリカへの留学、旅を通し、自分の今いる環境への感謝と、人との出会いがもたらす大きなパワーを再認識しました。

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 1月

作成者：田中優葵乃

作成日：2023 年 2 月 8 日

春学期がスタートして、1か月が経過しました。これまでは8時になってようやく日が出てくるようだったのですが、ここ最近では7時半には朝日が昇り、清々しく気持ちの良い朝を迎えることができ嬉しいです。それと同時に月日の流れを感じ、留学が残り少しかと思うととても寂しいです。今月の報告書では、春学期の授業、新たな学び、新年会について報告致します。

【春学期の授業】

今学期は、Writing、ミクロ経済学、スピーチ、宗教、教育学部向けの Ethnicity クラス、そして先学期に引き続き元気キッズの授業を受講しております。スピーチのクラスは、タイプの異なる4つのプレゼンテーションを授業の中で行っていくようで、先日1つ目の Process Speech の発表を終えました。これは、2分半から3分半以内で何か自分の決めたトピックの過程を説明するというスピーチで、私は折り紙でのハートの作り方をデモンストレーションしながら発表しました。スピーチ、プレゼンテーションは先学期私が一番課題だ感じていたもので、今学期たくさんの経験を積んで、成長できるようにしたいと思っています。他の子のスピーチからより良いスピーチを行うためのポイントを学んだり、スピーチの見本動画から自分の理想のスピーチを想像して、練習を積んだりして、一回一回のスピーチのチャンスを大切に、一生懸命取り組みたいと思っています。

宗教のクラスは、ユダヤ教とキリスト教の伝統というタイトルの授業で、両宗教の聖書である旧約聖書を読み進めています。現在は神様がどのように世界を作ったかが書かれている創世記という聖書の最初の部分を学んでいます。聖書の内容は考えたこともなかった、想像もしなかった全く新しいもので、なんだか不思議です。クラスのコース目標として、学びを通し、なぜ私たちは生きるのか、どのように生きるべきかといった人生の永続的な問いや、悪と苦悩について、共通善を求めることの意味を探求するということが掲げられており、先学期にとった哲学の授業とリンクする部分があると感じます。授業を通して、聖書の理解を深めてそのような精神的、哲学的な問題を、これまでとは異なる文化の視点から考えていくことができれば良いなと思っています。

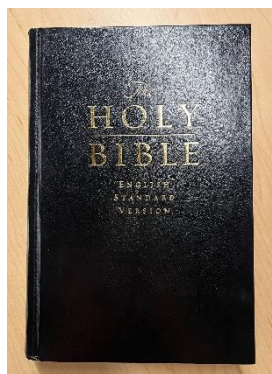
【新たな学び】

先学期にこちらの友達が誘ってくれ一緒に、毎日曜にキャンパスから程近い教会に行くようになりました。初めは何の知識もなく、リスニングもままならないため、全く理解できなかったのですが、日がたつにつれリスニング力が向上してきたのか、すべてを聞き取り理解するまでにはまだまだ道のりが長いですが、内容が理解できるようになってきました。初

めは、自分がマイノリティの意識があり、周りの目も気になったのですが、教会の方が暖かく、コミュニティに混ざって心穏やかに 1 日を始められるので好きな時間です。フィンドレー大学が基督教の大学であることもあって、学内には Bible Study を行う学生グループがあり、先日初めて参加してみました。そこで聖書を無料でいただけたことに加えて、日本語を専攻している友達が、日本語翻訳の聖書の本を貸してくれて、聖書を学ぶ意欲が湧いています。教会に行って話を聞いたり、友達に質問したり、授業で聖書について客観的な視点で学んだりする中で、宗教が人々の精神性を築いていると感じました。例えば、神は、それぞれに役割、その人らしさとなるアイデンティティを与えており、一人一人が特別な存在で、意味をもってこの世に生まれたという教えは、自分を大切に、誇りを持って生きるというこちらの人の持つ精神的な部分に現れていると思いました。また、私たち日本人の宗教観に翻って考えると、中高生の時に古典の授業で学んだ儒教が思い出されます。善悪の判断、思いやり、誠、徳といったキーワードとそこから生まれる精神性は、基督教とはまた異なり、私たちの価値観を作っているのだと感じました。基督教の学びを通して、人々が何を信じているのか、どのようなことを大切に考えているのかを学ぶことで、焦点を当てたことのなかった価値観を得て、心が豊かに、穏やかに、そして自分と向き合って生きることができるのではないかと思います。吸収できることはどんどん吸収して、またそこでの友達との関わりを深められるように頑張っていきたいと思います。

【新年会】

1 月 29 日に、こちらで日本語を教えている川村先生のご厚意で、日本人留学生、日本語を学んでいる学生、今後日本の大学に留学する予定の学生などが集まり、新年会を行いました。そこで、書初め体験をし、みんなでお餅を食べました。習字が初めての生徒が多かったので、サポートしながら一緒に楽しみました。また、お餅を皆で丸めてきなこ、あんこ、海苔と醤油の 3 種類の味で楽しみました。お餅も初めて食べる子が多く、皆の反応を見ると海苔醤油の組合せが人気のようでした。久しぶりにお餅を食べることができ、またこちらの友達と日本の文化を一緒に楽しめて心が満たされました。



残りわずかの留学となりましたが、積極性を忘れず、友達との仲を深め、新しい友達もまだまだ作っていけるように、頑張りたいと思います。

中国の友達が作ってくれた豆腐スープと Bible Study でもらった聖書

本報告書についてご質問、感想等ありましたら

以下のメールアドレスまでご連絡ください。

tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 2月

作成者：田中優葵乃

作成日：2023 年 3 月 10 日

3月に入り、寒さも和らぎ、桜こそ見られませんが、暖かな日差しと空気に春の心地を感じるようになりました。今月は、International Mother Language Day, 春休み、Funday Sunday についてご報告致します。

【International Mother Language Day】

21日に International Mother Language Day のイベントが大学で行われ、他の日本人の留学生と日本語を学んでいるこちらの学生3人と共にソーラン節を踊りました。International Mother Language Day とは、ユネスコによって言語や文化の多様性の意義を認め、そのような意識を促進するために制定された日で、これはバングラデシュでの言語闘争がきっかけのようです。元々バングラデシュの公用語はバングラ語だったのですが、隣国パキスタン政府によって、バングラ語の使用を禁止、代わりにパキスタンの公用語ウドゥ語を新たにバングラデシュの公用語するよう強いられ、大学生たちを筆頭に多くの民衆が反発運動を起こしました。この運動によって、パキスタンの圧力に屈することなく、彼らの真の公用語バングラ語を使い続けることができたのですが、悲劇的にも運動を率いていた大学生5人が、暴動の中で命を落としてしまったのです。今年フィンドレー大学には、44か国から International Students が学んでおり、彼らの母国語、そして文化を尊重し、またアメリカの生徒や先生に紹介しようという目的で、イベントでは様々な国の生徒が母国語の歌を歌ったり、ダンスを発表したりしました。当日は、こちらの生徒が想像以上に集まり、足を止めてくれたので、緊張したのですが、これまでの皆との練習の成果もあり楽しんで踊ることができました。

また、17日にはフィンドレー区内の Cory Rawson High School のスペイン語のクラスで International Mother Language Day に関するプレゼンテーションを行いました。バングラデッシュ出身でこちらの大学院生のシャルミナ、シャリフと共に、他国の文化、言語を尊重する異文化理解の大切さや、彼らのスペイン語の学びをどう活用できるか、いかに彼らの人生を豊かにするかを、留学生の私たちからの視点で話しました。高校生の真剣なまなざしが印象的で、私たちのプレゼンテーションが彼らのスペイン語を学ぶモチベーションをより高めることができていると嬉しかったです。

【Funday Sunday】

2月5日は、大学構内で、フィンドレー区内の子どもたち向けにイベント”Funday

Sunday”が開かれました。高校生や、フィンドレー内の子どもたち向けの事業を行う団体などがそれぞれブースを持ち、私たちがミニボーリングのコーナーを設けました。3歳4歳の小さな子どもたちは、私たちが家に持って帰る用の景品として作った折り紙にもいい反応を見せてくれました。小さな子供たちの手を引くお父さん、お母さん、また祖父母の方は、ゲーム中子どもたちを褒めつつ、最後に子どもたちに私たちに向け「何て言うの？」と問いかけ、ありがたい感謝の言葉をしっかり伝えるよう話していました。子どもたちの喜ぶ笑顔が見られたことに加えて、そのようなお母さん、お父さん方からもありがたいと言ってもらえたり、景品の折り紙がすごいねと言葉をかけて下さったりし、とても嬉しかったです。

【春休み】

2月の最終週の春休みには、フィンドレーから車で2時間弱にある Cuyahoga Valley National Park を訪れました。とても暖かかったこの日は、春休み前怒涛の中間テストを終えた清々しさもあり、自然を体いっぱいを感じる良いリフレッシュとなりました。道中にメキシコ料理チェーン店 Chipore に立ち寄り、見た目も食べ応えも重量感のあるタコスを食べ、公園を散策し、帰りにアイスクリームショップでアイスを食べ休んでから帰路につきました。韓国と台湾出身の友達と車で盛り上がったのはそれぞれの言語についてで、日本語はアクセントや抑揚が強いよねと言われました。自覚がなかったので驚きだったのです



ですが、私自身も韓国語や中国語、またバンラデッシュ語を聞いての発見があったことと同様に感じる部分が他の国の人にあり、私たち自身も彼らから気づきが得られました。

英語についても、先日ルームメイトから地域ごとの発音や読み方の違いを教わりました。彼女によれば、ニューヨークや南部特有の発音は、私たちにも分からないと言っており、一緒に YouTube で地域ごとの顕著な発音の違いを調べ、映像を見て盛り上がりました。こちらに来て、アメリカ人の人だけでなく、イタリア、セルビア、スペイン、イギリス、またその他アジアの国の人とも出会い、アクセントや話し方の違いはあれど英語でつながることができるということを実感でき、嬉しさを感じます。

留学の終わりが迫ってきていることを感じるこの頃で、寂しさでいっぱいなのですが、最後まで精一杯努力を重ねること、挑戦することを心におき精進していきたいです。

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。tanakay@findlay.edu



Cuyahoga Valley National Park

2022 - 2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3 月

作成者：田中優葵乃

作成日：2023 年 4 月 11 日

あっという間に 4 月に入り、留学生活も残り 3 週間となりました。本当に驚くほど時間が経つのが早く、この学生生活が終わりに近づいていることをとてもさみしく思います。今月は、小学校訪問、図書館での日本文化交流についてご報告致します。

【小学校訪問】

3 月 16 日に、Findlay 区内にある Northview 小学校の 2 年生のクラスを訪問しました。このクラスに訪問するのは 2 度目で、担任の先生よりぜひと再度お声がけをいただき、訪問させていただきました。先学期に初めて訪問した際は、私自身が子どもたちを主導してアクティビティを行ったのですが、今回は子どもたちが授業を受けている様子を見学し、学習の手助けを行いました。大学で教育学部を専攻し、小学校教育について学んでいるため、アメリカの学校の teaching style や教育内容に興味があり、また訪問させていただけるのはとても嬉しいです。その上、子どもたちはとても愛くるしく、“Can I give you a hag?”と言って抱きついてきてくれるのはかわいすぎました。

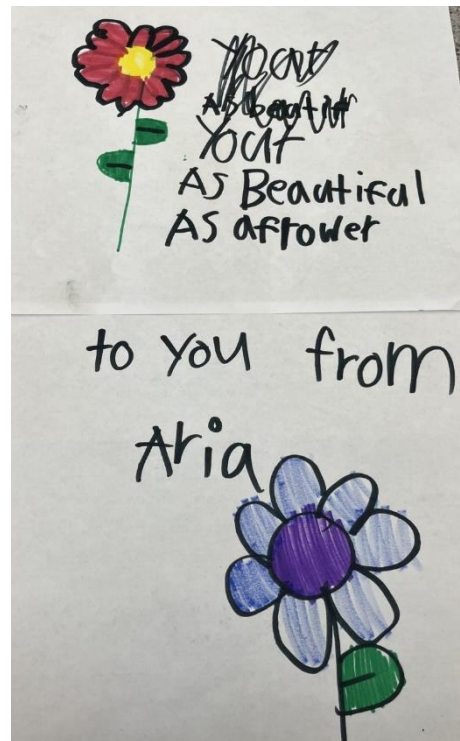
まずクラスでは算数の授業として立体と計算の勉強が行われました。授業は生徒たちがイラストレーションカードにあるいくつかの立体や硬貨に順番に焦点を当て、なんという立体なのか、辺や頂点はいくつか、硬貨は合計でいくらか、をそれぞれ考え、各自のミニホワイトボードに答えを書くという流れでした。ただ、この授業中、先生は子どもたちの前に立つのではなく、先生が指名した生徒一人が、他の子どもたちの前に立ち、彼らにイラストレーションを見せる先生のような役割を果たしていました。子どもたちの learning style も並べられた机に着席して授業を受けるのではなく、黒板（ホワイトボード）の前に各自に割り当てられたホワイトボードとペンを持って集まり、カーペットのような床に座って学んでいました。先生の質問（この立体は何という名前？辺はいくつ？イラストの硬貨は全部でいくら？など）に対する答えを書いたら、ホワイトボードを掲げ、みんな自分の答えを先生に主張し、とても賑やかです。授業と授業の間にチャイムなどもなく、先生の“次は Reading をしましょう”の一言で次の授業へと移行です。次の授業は主に、Reading, Phonics の授業で、子どもたちは各々自分の好きな場所で、ラップトップを開き電子教材を読み進めたり、自分で教室にある本棚から本をもってきて読んだりしていました。クラスは 3 グループに分かれており、1 グループは担任の先生が読み聞かせを、2 グループは Phonics 担当の先生による Phonics を、3 グループは先ほど言ったような自習スタイルで学ぶといった形で、ローテーションしていました。算数、国語の授業を終えた後、クラスの子どもたちと共にカフェスペースに向かい、お昼を共に楽しみました。カフェテリアにはお昼の時間子どもたちの面倒を見る職員がおり、先生は職員の休憩所で昼食をとるというスタイルでした。日本のよ

うな配膳や給食指導はなく、子どもたちも大きな長テーブルに並んで、各々のランチボックスを開き、食事を楽しんでいました。

クラスを見学しての一番の驚きは、子どもたちの発言の多さと積極性で、アメリカのクラスは日本の授業の様子とは全く異なる雰囲気でした。生徒たちの活発さと他を気にせず自分を主張する背景には、先生が個人個人の意思を尊重し、生徒をたくさん褒めることが一つ挙げられると思います。また、集団で学ぶ、生活するという意識が強い日本とは異なり、とても自由な環境でまさに”individualize”の文化を感じました。小さな頃から、自分の意見を求められ、自分はどう考えるかを自由に、躊躇なく発言できる教育環境で学ぶことは子どもたちにとって間違いなくプラスだと思いました。その一方で、日本の規律やルールを守り、落ち着きのあるクラスも、社会性や協同性を培うことのできる意味で良い部分でないかと思いました。



訪問したクラスの掲示



クラスの生徒が手渡してくれた絵

【お弁当作り体験】

フィンドレーのダウンタウンにある公立図書館で、中高生と日本のお弁当作り体験を行いました。図書館で定期的に行われる子供向けのイベントとして、これまで2度折り紙を行ったことがあったのですが、今回は日本のお弁当にチャレンジすることにしました。小学校に訪問した際、お昼ご飯に持参したスナックを食べている生徒を多く見かけ、日本のお弁当を紹介したら、楽しいのではないかと、彼らにとって新鮮ではないかという期待がありました。おかずとして準備したのはタコさんウイナー、卵焼きで、せっかくの機会なのでキャ

ラ弁も紹介出来たら！との思いでちょっとしたキャラ弁風お弁当を作ることにしました。

図書館の方が用意してくださったお弁当箱に、好きなように具材を入れ、思い思いに海苔を切って引き詰めた白ご飯にのせたり、型を使ってハート型にご飯を型取ったりできるよ



お弁当作り体験でのサンプル

うなお弁当作り体験です。子どもたちの中に、日本語を学校で学んでいる生徒がおり、白ご飯とのりでご当地キャラクター“くまもん”をイメージして楽しんで作っていてとても嬉しくなりました。日本の文化を伝えることは簡単ではないですが、食や体験的なアクティビティは彼らにとって楽しさがあり、私たち自身もやりがいのある楽しい時間です。実現させることができ良かったなと思います。

春学期も2週間の通常授業と最終テスト期間の1週間を残すばかりとなりました。最近では、コミュニケーションのクラスでのスピーチ、宗教の授業でのミニプレゼンテーション、教育学部の授業でのグループプレゼンテーションなど、前に立って発表する機会が授業で多くありました。こちらの生徒と同じように喋り、質の高い発表をすることが目標なのですが難しく、満足する発表にならず悔しさを覚えることも多々あります。ただ一つ言えるのは、あまり緊張しなくなったということと、そのようなプレゼンテーションをする機会を得られることがとても嬉しいということです。留学に来て、自分の英語力にがっかりしたり、悔しい思いをしたりすることは多くあったのですが、でもやはり場数を踏むことは成長につながるし、様々な経験を積めることはとても楽しいです。来週には、地球環境を学ぶクラスで日本のリサイクルについてプレゼンテーションをさせていただく予定で、最終週にもコミュニケーションのクラスでの最後のスピーチと、私たち日本人留学生のお別れ会でのスピーチを行う予定なので、悔いを残すことなく終わられるよう頑張りたいと思っています。3週間後には留学生生活をじっくり振り返る時が来るのですが、今は目の前の授業とこちらの友達との時間を大切にして、かけがえのないキャンパスライフを存分に楽しみたいと思っています。

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

tanakay@findlay.edu

2022 - 2023 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 4 月

作成者：田中優葵乃

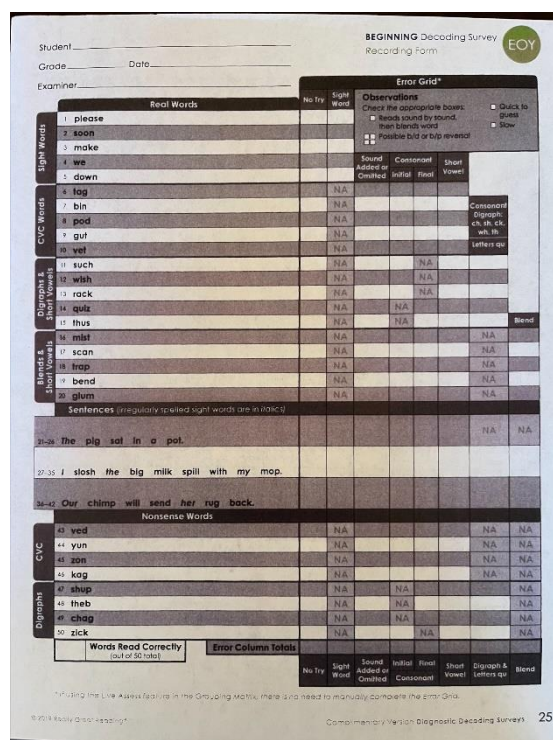
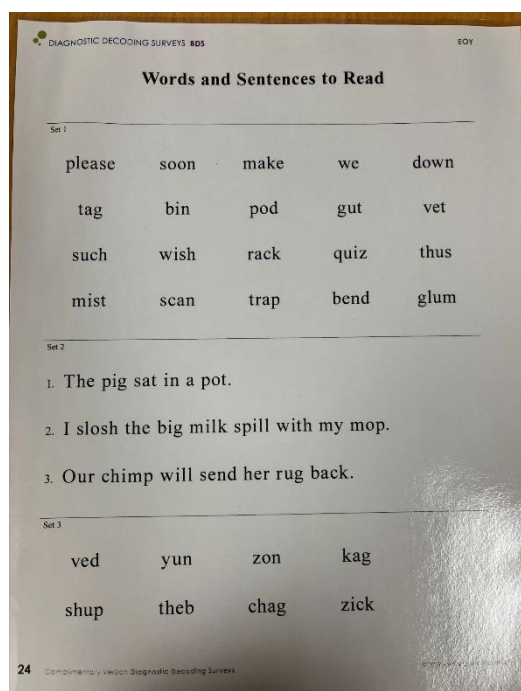
作成日：2023 年 5 月 11 日

とうとう 5 月になり、最後の 1 か月もあっという間に過ぎてしまったなという思いで、寂しくもあり感慨深くもあります。どうしてこんなに月日が経つのが早いのだろうと考えたのですが、それは普段の授業に加え様々な新たな取り組み、出来事があり、毎日充実できているからなのだとしみじみ思い嬉しくも感じました。今月は Phonics のクラスへの参加、フクビ USA への表敬訪問、イースターブレイク期間の旅行についてご報告致します。

【Phonics】

先月 Northview elementary school を訪問させていただいた際に、顔見知りのフィンドレーの学生を見かけたため、話を聞いたところ、Phonics の授業の一環で子どもたちに教えに来ているとのことで、教授にメールをし、その様子を見学させていただきました。Phonics は主に小学低学年、中学年で実施される英語の勉強法のこと、英語の音とアルファベットの並びがどうリンクしているかを学ぶことにより、Reading, Writing の力を培うためのものです。教育学部では Phonics の教授法と実践を学ぶ授業が 2 つ開講されているようで、Northview 小学校を訪れて教えるものと、大学に子どもたちが放課後に訪れ、大学でその子供たちに教えているものがありました。どちらも週 1 回、決まった生徒と大学生がペアになり 1 対 1 で 30 分又は 1 時間の間、その子たちの能力や出来に合わせて個別での Teaching を行っていました。学校のクラスでも Phonics の授業は設けられているのですが、クラスの進度に遅れをとっている子もいるので、そのような子たちの学びを補足する意図で教育学部生と補習学習をしていました。日本での英語学習を振り返ると、Vocabulary, Grammar にフォーカスされがちで、単語もとにかく覚えるというようなことだったと感じます。英語を学ぶ際に、発音に注目してアルファベットの letter を並べたり、アルファベットの並びから読み方（発音の仕方）を予想したりするというのはこれまでの勉強法とは全く異なる方向性だったので驚きでした。確かに母国語は皆、耳に入ってくる音から学ぶので、その意味でアメリカの人が英語を学ぶ際に Phonics が必要となるのは納得できます。Phonics では実在する言葉を実際に読み、正しい発音ができているかを練習するだけでなく、存在しない言葉を予想して発音することも行われていました。私たちは、実際にある言葉をその綴りと意味、発音の仕方を一度に覚え、使えるようにしていくという学び方が一般だと思うのですが、ない言葉の発音があっているかどうかをチェックするというプロセスは音とアルファベットの並びをセットで学ぶためだと考えられます。1 対 1 で教えている場に一緒に座って、見学させてもらったのですが、大学生は子どもたちのひとつひとつの進歩をしっかりと褒め、子どもたちも楽しそうに学んでいる姿が印象的でした。また、勉強の中に遊びを交えて、30 分、1 時間の中で Reading, Writing, Assessment と呼ばれる理解度の判定と小さな子ど

もたちが飽きることなく楽しんで勉強していました。大学に来て学んでいる子どもたちとは、屋内だけでなく、外に出て芝生に座って勉強したり、コンクリートの地面にチョークで綴りを書いて教えたり、けんけんぱの丸を書いて遊びながら学んだりと自由な雰囲気がありました。また、Reading 練習としての本はどちらがいいか、遊びと Assessment のミニテストどちらを先に行うかなどの選択を子どもたちに与え、子どもたちの意志を尊重しながら教える姿も印象的でした。小さな子を教える時に楽しみながら学べるようにすることは大切だと考えさせられ、また褒めることも子どもたちの学びの意欲につながるのだと感じました。また、Northview 小学校に行くにあたって、友達が車と一緒に乗せてくれ、Phonics の教授法や日本では英語をどう学んでいるのかを話したり、大学での Teaching では子どもたちとの遊びを一緒に楽しみ、使用したプリントもくれたりして同じ教育学部の友達から Phonics について教えてもらうことができ嬉しかったです。



Phonics の teaching で使用していた教材
 左) 子どもたちがそれぞれ読み上げていく Words Sentence カード
 右) 学生が正しく読めているか、間違い部分はどこかをチェックしていくプリント

【フクビ USA への表敬訪問】

オハイオ州デイトンにあるフクビ USA に福井県奨学生として表敬訪問をさせていただき、会社の工場や取り組みを見学、ご説明していただき、これまでの留学の総まとめとなるプレ

ゼンテーションをさせていただきました。フクビ USA では様々なプラスチック製品、部品を作っており、SDGs を意識し、環境を配慮した製品作りを行っているとのことでした。従業員の方の前でプレゼンテーションをさせていただき、どんなことを学び、何を得たか、経験を今後どう活かしていきたいか、今後の展望を発表させていただきました。従業員の方々がとてもやさしくアットホームな雰囲気でもとても楽しみながら発表し、発表後もお話しさせていただきました。自分自身にとって最後のプレゼンテーションで、終わった後に達成感と感慨深さを感じました。

【イースターブレイク旅行】

約 1 週間のイースターブレイクが 4 月の中旬にあり、友達とロサンゼルスに行ってきました。西海岸に行くのは初めてで、想像通りオハイオの気候とは異なり、カラッとした暖かさの地中海性気候を感じました。3 泊 4 日の弾丸旅行だったのですがカリフォルニアディズニー、ハリウッド、サンタモニカビーチ、カリフォルニア大学ロサンゼルスキャンパス、エンジェルス野球観戦を楽しみました。一番の思い出は、ホームスタジアムでのエンジェルス野球観戦で、開幕週であったこともありすごい賑わいでした。大谷翔平に打順が回ってきた時にはひととき大きな歓声が起こり、“Ohtani!!!” という叫び声があちらこちらから起こっていました。旅を通して驚いたことに人種の多様性が挙げられます。白人の多い中西部オハイオとは異なり、西海岸のロサンゼルスではヒスパニック系の人が多くおり、同じアメリカでも地域によってこんなにも異なる Ethnicity の人々が住んでいることは驚きでした。



Angels スタジアム



イースターの伝統行事エッグハントを
キャンパスで友達とした際の写真

本報告書についてご質問、感想等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。
tanakay@findlay.edu

2022-2023 フィンドレー大学・福井県奨学生 修了報告書

田中 優葵乃

初めに、福井県奨学生としてフィンドレー大学への留学の機会を頂き、多大なるご支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。約 10 か月間の留学は私にとってまさに、“Unforgettable” “Lifechanging”なものとなりました。留学を通して得たこと、吸収したことは数多くあり、私自身にとってかけがえのない財産になったと感じています。

留学の中で知りたいと思っていたアメリカの政治に関する人々の意識について感じたことは、宗教との深いつながりです。特に、敬虔なキリスト教徒の友達と関わったり、キリスト教についての授業を受けたりするなかで、中絶や銃、LGBTQ といったトピックが保守派とリベラル派とを分ける大きな問題であることが分かりました。また、これらはキリスト教での神の教えとも関連しており、人々の宗教観、信仰心がどちらの政党を支持するかにつながってくる側面があるようでした。ただ、そうはいつでも政治には無関心である人もいるし、問題によって支持する政策が異なるので相対的に中立だとする人がアメリカ人の大半だと授業で聞きました。日本人が持つ仏教、神教における宗教観は、仏や神への信仰心というよりは慣習、儀礼的な意味で、私たちの生活に溶け込んでいる感覚であるので、アメリカとは大きく異なるのだと気が付きました。

アメリカの文化や人々の価値観、考え方に触れた中で感じたのは、自尊心や、隣人愛、家族愛を人々が強く持っているということです。周り、他人がどうかではなく、“自分”をもって自分らしく生きること、また家族を大切にすることは尊いことだと思いました。人それぞれの個性や考えが尊重される社会、また他人を気にしすぎない空気観がアメリカにはあるのだと感じました。

自分自身の歩みを振り返ると、勉強面、精神面でも成長できたのではないかと思います。もちろん今の自分の英語力はまだまだなのですが、授業、課題、コミュニケーションなど自分なりに一生懸命頑張ることができたと思います。そして、今後も自分の努力次第で英語力を伸ばすことはできると思うので、自分の目標に届くことができるよう頑張っていこうと思います。精神面では、SNS や他の影響を受けやすい現代ですが、そうではなく自分自身と向き合い、またポジティブな心で夢に邁進することが大切だと改めて感じさせられました。フィンドレー大学は 7 割を超える生徒が獣医学部で、獣医を目指す生徒はとても高い競争率での大学院進学が必須です。友達も獣医学専攻の子が多かったのですが、彼らは本当に一生懸命に勉強に励んでおり、刺激を受けました。Phonics の授業で関わった友達は 3, 4 年生の子で、この 5 月に大学を卒業し、秋から先生として働き始める子や、1 年後の卒業後大学院進学を考えて頑張っている子など皆自分の将来を見据えて、努力、自律していると感じました。自分はこうなりたい、こんなことがしたい、という意志をしっかりと口にして前向きに取り組んでいる姿や、熱心に勉強に取り組む姿は見習うべき点だと思いました。そういっ

た多くの友達、人々との出会いは、留学をすることができて良かったと感じる大きな理由です。

アメリカで学び経験し、考えさせられたこと、この貴重な財産を大事に、よりステップアップしていくことができればと思っています。そして、改めてこのような機会をくださった福井県国際交流協会の皆様、留学の中で関わってくださった大学の先生方、友達、そして家族に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。